

令和元年度第2回掛川市総合計画審議会 議事概要

日 時	令和元年 8 月 30 日（金） 13:30～15:30
会 場	掛川市役所 5 階 議会全員協議会室

■出席者（敬称略）

No	所属等	氏名	出席状況
1	掛川市社会福祉協議会	伊藤 敏子	出席
2	株式会社静岡銀行掛川支店 支店長	木野 章博	出席
3	株式会社大と小とレフ 取締役	鈴木 一郎太	出席
4	掛川市社会教育委員会 委員長	鈴木 緑	出席
5	静岡県西部県民生活センター 次長	高橋 由利子	出席
6	国土交通省浜松河川国道事務所 所長	田中 里佳	欠席
7	掛川市地区まちづくり協議会連合会 会長	中村 隆哉	出席
8	NPO 法人掛川国際交流センター	樋代 典子	欠席
9	静岡大学 人文社会科学部長	日詰 一幸	出席
10	掛川みなみ商工会 副会長	平松 季哲	出席
11	一般社団法人中東遠タスクフォースセンター 理事長	星之内 進	出席
12	株式会社三菱総合研究所 主席研究員	村上 文洋	欠席
13	東京女子医科大学看護学部 教授	守屋 治代	出席
14	株式会社山本製作所 専務取締役	山本 美鈴	出席

発言者	発言内容
1. 開会	
事務局	(省略)
2. 日詰会長あいさつ	
会長	<p>お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。今日で2回目の総合計画の審議会です。</p> <p>昨今の社会状況の大きな変化や掛川市がこれから取り組もうとしている人生100年時代構想なども含めて、一定程度、基本構想に触れる部分も出てくることが想定されます。</p> <p>今日は2時間という限られた時間の中でいろいろな角度から、そして皆様の専門の角度からご意見をいただければと思っています。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
3. 市長あいさつ	
市長	<p>本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>また、前回は総合計画の第2次掛川市総合計画の改定に関する基本方針について活発な議論をいただきありがとうございました。</p> <p>今や世界は、第4次産業革命ともいわれ、AIやIoTなどの技術革新により、全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、新たな価値を生み出すことで、経済発展と課題解決を両立していく社会「Society 5.0」になっていくと言われています。</p> <p>一方で、日本は、今まで世界が経験したことの無い人口減少、超高齢化の時代に突入しており、今後、ますます社会が変化していく中で、これまでの延長線上ではない、新たな仕組みが必要となってきています。</p> <p>私は、新しい公共モデルとして、協働のまちづくりを発展、進化させるとともに、多文化共生の取組を進めて、お互いの特性や文化などの多様性を認め合う、全ての人にとって優しい社会をつくっていくことが、掛川市の大きなビジョンであると考えております。</p> <p>また、将来の掛川市のあり方として、中心市街地や地域拠点へ都市機能を集約し交通ネットワークでつなぐ多極ネットワーク型コンパクトシティへの誘導や、南海トラフ巨大地震などに対応した災害に強い社会基盤の整備を進めていくことも重要であります。</p> <p>本日は、新しい令和の時代を迎え、今後の社会情勢の大きな変化を見据えて、20年後の掛川市を想像しながら今後7年の間に重点的に取り組むべき、まちづくりの方向性について、議論し、戦略の柱に反映していきたいと考えております。</p> <p>皆様のこれまでのご経験や専門的な見地から、活発なご議論をご期待申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。</p>
4. 議事	
会長	報告事項2件を事務局からお願いします。
企画政策課長	人生100年時代構想及び市民意識調査について事務局から説明。

発言者	発言内容
会長	説明について質問ご意見があればお願いします。
委員	細かい特性について確認させてください。 年齢層、地区について出すことは難しいでしょうか。
企画政策 課長	この場では難しいので後ほど提供します。
会長	必要なデータがあれば事務局で用意してくれます。
委員	とりまとめて依頼させていただきます。
会長	次に、協議事項です。 一つ目が第2次掛川市総合計画基本計画重点施策の評価についてです。 事務局から説明をよろしくお願ひいたします。
企画政策 課長	第2次掛川市総合計画基本計画重点施策の評価について事務局から説明。
会長	評価が高いものと余り伸びていないものという評価が二極化しています。 ご意見があればお願いします。
委員	前々から評価が良くないものがあります。 この間に何か施策を行ったものがあれば教えてください。
企画政策 課長	毎年行政評価を行い、課題を見つけて次の年に反映していくということでPDCAサイクルを回しています。アクションは起こしているものの、なかなか結果に結びつかないところと前年より数字は上がっているのですが、目標がだんだん上がっていくので追いついていかないところがあります。低いのがそのまま低い状態になのが全体的な傾向かと思ひます。PDCAで回していますが、改善するように行っている。改善しているが、目標も上がっているため評価があがっておりません。
協働環境 部長	茶エンナーレについては市民に芸術文化をもっと身近に感じていただきながら、掛川市をPRしていこうという取り組みを進めています。この結果についてのもう一点の分析として、そもそも、設問の聞き方に工夫が必要だと思ひます。芸術文化に触れたかということをも市民としてはすごく高尚なものをとらえてしまっていると思ひます。例えば身近な映画鑑賞するとかそういったことでも本来は十分なわけですが、構えてしまつて、触れていないという回答にしてしまっているという内部的な意見もあります。ですからもう少しかみ砕いた形で設問の中に補足するような工夫が必要という話をしつつ、来年の茶エンナーレ2回目の本番に向けて今肅々と準備を進めています。
産業労働政 策部長	まず1ページ目の中段にございます中心市街地の居住人口は、ずっとDですが、数値につきましては、中心市街地の活性化法というのがありまして、そのエリア内に於ける国への提出書類を元に数字を作つてあります。その中で居住人口は、今現在、東街区にマンションがありますが、77棟、全てが売れております。それにあわせまして、計画では西街区のというような形でマンション等を入れての計画を国には出しております。しかしながら、昨年、新たに西街区には、今の島田掛川信用金庫が中心にマンション等のない形の計画になっております。したがいまして、民間活力等によって行つていく、そういった目標に変えていかなければならないと考へております。国の交付金が入っていることによる実績ということについてもご理解いただきたい部分でござ

発言者	発言内容
	<p>います。めくっていただきまして、農業所得 800 万以上の認定農業者数でございます。これもずっと D ですが、従来からずっと農業の指標は 800 万としておりますが、なかなか難しく、国では、800 万の指標を使うところが大分少なくなっております。しかし、我々としては、儲かる農業ということビジョンの中で掲げており、ここにクリアできてないと法人化を進めたり、複合化をより一層進めたり、お茶の付加価値をつけるというようなことでやっていきたいとは思っております。そこに対するビジョンとのずれがあることもご理解いただきたいと思っております。</p>
<p>こども希望 部長</p>	<p>子育てコンシェルジュの相談件数ですが、28 年度以降ずっと D という形になっております。コンシェルジュの活動は、子育て世代の特に 1 歳になったお子さんへの訪問活動をやっておりますが、私どもは当初第一子だけだったものを第二子、第三子と対象を増やしたこと、健康医療課と一緒にになって保健師と一緒に相談するようにし、充実させております。ここについては当初の計画目標は、各 5 つのふくしあに常時配置をし、やっていきたいという思いもあったのですが、乖離が大きくなっております。コンシェルジュは、保育士の資格を持った、職員非常勤の職員に対応していただいておりますが現在の保育士不足という中で、なかなか新たな新たに保育士を増やしていく体制ができていないというのも一つの要因かと思っております。それから、待機児童数ですが 28、29 は 0 だったのですが、30 と今年は D ということで、保育施設を新たに建設するように対応しております。それ以上に保育ニーズが増えてなかなか対応し切れていないということでそのような評価になっております。引き続き、待機児童解消を図っているところでございます。</p>
<p>健康福祉 部長</p>	<p>ふくしあで繋ぐ地域の健康づくりの健康で生きがいを持って暮らしていると思う市民の割合、こちら C、D と続いているわけですが、こちらの結果につきましては市民意識調査結果報告書の 40 ページの方をちょっとご覧いただくと良いかと思っております。11 というところに、あなたは、健康で生きがいをもった人生を送れていると思いませんかという問いに対し、1 思うという割合です。そして思うという 108 とまあ思うという数が 633 件なのですが、それをトータル 1014 で割ると約 62.5% 近くということで、この数字が出ているわけです。お達者市民推進プランというものに基づいて長く健康で生きていくという形でいろんな計画を推進しているところでございます。数字的には割合として伸びがないわけなのですが、同じくお手元の 34 ページのところ満足度と優先度のランキングっていうのがございますが、生涯お達者で長く健康で暮らしていこうというプランに基づいて推進し、いろんな健康施策の評価として、34 ページの中では健康づくりの強化については 1 位という形で評価をいただいております。今後もますます努めていきたいと思っております。</p>
<p>会長</p>	<p>各部長から、それぞれの状況についてご説明いただいておりますが、何かございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>企業の子育て向上プロジェクトの仕事と家庭の両立支援に取り組む企業への支援数ですが、要望してくる企業がないことなのか、支援ができない状況なのか、0 社の支援数っていうのはどうことでしょうか。一概に数字だけで見たいとは思っていません。</p>
<p>委員</p>	<p>仕事と家庭との両立支援に取り組む企業の審査ということで、28 年度は A という評価</p>

発言者	発言内容
	<p>だったのですが、社会保険労務士と協働で、市内の企業に雇用環境や就業規則の改定のご相談等に対応しているところがございます。28年度 10社を超えたわけですけど、その後、電話相談とか従業員側の方からの相談も対応するという形で対応しているところですが、企業さんとする、今の経済情勢の中で、企業としてもやれるだけのことをやっているが、なかなか相談まで結びついていないと言ったところがございます。企業の子育て向上プロジェクトの2つめ企業の支援数について 1社、0社となっています。支援数とはどういうことでしょうか。要望する会社がないのか、支援ができないということでしょうか。</p>
<p>こども希望 部長</p>	<p>こちらについても社労士さんが電話を待っているという状況ではありますので、やり方の見直しをしていくということで検討課題にしております。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば労働基準法に従ってそういう専門的なことは社会保険労務士さんなどの専門職の方がいらっしゃると思いますが、ぜひそういう方と家庭教育支援員が40名くらいいますが、企業に向けてと実際に働いて子育てしている人たち、そういう人たちをうまく仕事と家庭を両立できるように、主には保護者向けですが、そういったところで一緒に考えていけるようにしていけないかと思っています。また、働いている人たちを結びつけたり、企業側と話をする機会を設定したりとか、何かそういういろんなお手伝いができるのではないかなと思っています。両立するためにいろんな側面があると思います。そういうところもちょっと考えていただきながら、ここにお互い支援する側も、支援される側も必要とするような何かそういうところを考えていただけると要望するような企業も増えてくるのではないかなという感じがします。</p>
<p>こども希望 部長</p>	<p>ぜひ、家庭教育支援員さんともお話もさせていただきながら、より良い子育て環境、両立できる環境整備に努めていきたいと思っております。ありがとうございました。</p>
<p>委員</p>	<p>子育て優良企業の数についてよくわかりません。どうすると優良企業として数えられているのか評価するルールを教えてください。待機児童数が46人で21に減っておりますが、目標のゼロにはなっていないわけで、こども園を掛川市につくるのにも人数の認可などがあると思います。ご計画があるかどうか、教えてください。</p>
<p>こども希望 部長</p>	<p>企業主導型保育所については現在掛川市内4ヶ所ございまして、新たに来年春までに、もう1ヶ所予定しております。それから、子育て優良企業でございますが、こちらについては社会保険労務士さんと連携し、育休制度、男性育休、妊娠時の従業員への配慮、フレックス時間差で通勤、くるみんの認定、次世代育成の計画を作っているとかそういったところを評価しています。待機児童の関係ですが、来年の春に向けて現在、138人の定員の保育園。0歳から5歳までの保育園になります。こちらについて今建設が始まっております。来年4月に東高校の南側のところに建設する予定でございます。それから、先ほど申し上げた企業主導型の新しい施設が今建設中のものが来年4月に間に合うように開園すると伺っております。それからもう1ヶ所、小規模保育園ということで、0歳から2歳までの子供さんの保育施設、こちらは19名ということでそちらの建設も議会の方をお願いをして作っていきたいと考えております。</p>
<p>委員</p>	<p>子育てコンシェルジュの相談件数について質問ではありませんが、相談事業などいろいろなところでやっています。私どもの社会福祉協議会でも、総合的な相談を行って</p>

発言者	発言内容
	<p>おります。社会福祉協議会の方で三つの児童館を運営し、児童館の中でも子育て相談を行っております。それでコンシェルジュの相談などとも繋がりながら相談事業を進めていますが複合的な相談が多いので、相談事業をやっているところを繋げて、横の繋がりを持って進めていくと効果的ではないかなと思っております。今年度、NPO 法人と市の推進活動助成の事業で、ワンストップサービスということで児童館に入っただけで共有しながら相談事業を行った後に行っております。児童館は相談の窓口であって、専門的な機関へ繋げる役割もしておりますので子育て支援センター、様々な機関、相談機関の横の繋がりを強化していけたらと思って意見させていただきました。</p>
会長	<p>課題は複合化していますので健康福祉部とこども希望部で検討してもらいたいと思います。</p>
こども希望部長	<p>伊藤さんからのお話もありましたように複合化しています。子供の問題だけでなく貧困の問題から始まっていると複合的に起きているため、両方で検討していきたいと思います。ありがとうございます。コンシェルジュ、家庭児童相談室、保健師も、訪問の中でいろいろな情報を持っていますので、児童館も含め連携を密にするように取り組んでいきたいと思います。</p>
会長	<p>20年後を見据えた方向性についてお願いします。</p>
企画政策課長	<p>20年後を見据えた方向性について事務局より説明。</p>
副市長	<p>詳細について説明。</p>
企画政策課長	<p>第2次掛川市総合計画・改定 施策体系の考え方について説明。</p>
会長	<p>残りの時間で施策の方向性のキーワードにつきまして皆さんに少しご検討をいただければと思っております。20年後の掛川市の方向性とかあるいは今後の可能性についてはお話をいただいておりますので、そのようなことを参考にいただきながら、課題とかキーワードをぜひ皆様から出していただければと思います。</p>
委員	<p>公共施設マネジメントについて詳しく教えてください。</p>
企画政策課長	<p>公共施設マネジメントということで掛川市も200近くの公共施設建物を持っているのですが、これがこれから一斉に更新時期を迎えて、財政的にかなり困難な時代が来るということで今後50年かけてだんだん建物を減らして最適化をしていかなきゃいけないということが公共施設マネジメントの根幹になります。</p>
委員	<p>潰していくと言うことでしょうか。</p>
企画政策課長	<p>潰すのがありますし複合化をしていくもっと使いやすくしていくということが、根本の考えになります。</p>
委員	<p>大変夢のある話だと思います。こういう社会は必ず来ると思います。今の伺った中で、ご説明はあくまでも日本全国どこも共通ですが、掛川に内部化したときに何が課題かというところを享受するのが一番重要だと思います。外部環境に寄っていった時に、将来ビジョンの上で内部課題は何だろうかというふうにぜひそこまで落とし込むと構想と非常に具体的に関わってくると思います。特に危惧するのは社会資本というかお金をどうやって出してくるかという問題になってくるとキーワー</p>

発言者	発言内容
	<p>ドの中の産業のあたりと当然密接に関わって来ると思います。作業も IoT だっていう話がいっぱいあります。掛川の駐車場の予算、例えば、圧倒的に商工会議所、商工会で多い零細な商店の皆さんが一体どうなるのか、享受できるのか。あるいは自分の製品を持たない製造業者はそれを享受できるのかとか。逆に淘汰されるという可能性が非常に大きい。そういうことに対してどういう政策を打っていくかっていうことが非常に重要。外部環境の変化だけではなくて外部環境は内部化したときどうするか、特に気になるのが、これもキーワードでは難しいですけど、掛川の付加価値生産性の中でお金がどうあるのか。海外で展開している大企業について、海外でも皆さん儲けて、法人税は入ってくるかもしれませんが、これは何も生みませんよね。そうではなくて、掛け合いの中でどうやって資材発注されるなど、そういったものをしっかりどう上げていくか議論していただきたいと思いました。将来ビジョンを考えてバックキャストイングで物を考えて非常に重要なやり方だと思いますがぜひそういうところをお願いしたい。</p>
副市長	<p>まさにおっしゃる通りで今調べたことは日本全国または世界と言ってもいいかもしれないけれどもテクノロジーとしては、多分どこでも、理論的にはできる部分です。ただそれが本当に行き渡るかどうかということところは単に待っていればいいというよりは各地域で準備をして、関係者間できちんと議論をして役割分担をしないと活用できるというレベルには達しないということかと思えます。なので、例えば地域の足の問題、特に高齢者の移動の問題については、各地域でどういうふうにモビリティを活用する、料金についてもそうですけれども、そこを考えていかないと、せっかく技術的にはあるけれども、掛け合いでまた活用できてないっていうようなことにもなりかねないと思いますので、そこは協働の考え方でやってかないといけない部分だと考えております。ご指摘ありがとうございます。</p>
会長	<p>将来に向かって今、考えておいた方がいいということあるいは、これからどんなことを取り組んだらいいのかということについてお話できればと思うのですが、他の皆さんはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>今、話があったテクノロジーですけれども、これからそのテクノロジーの進化と同時に人、テクノロジーと人間の関係っていうのが非常に大事になってくると思うのですね。そのテクノロジーに人間性とか心がちゃんとついていくのか。人間の心が、同時に成熟していかないと非常に危険でもありますので、テクノロジーというのは方法論であって目的ではないので、何が本当に人間にとって幸せなのかとか、健康なのかっていうところの目的と方法を履き違えないようにしないと非常に危ないのではと思います。医療の面でもそうですけれども、その目的がテクノロジーの進化ではなくてそれは手段に過ぎないっていう辺りを将来ビジョンっていうことなので、そういうような方法をこれからどう描くのかというお考えなのだと思いますけれども、そのあたりのことが気になっていたことが一つと、それからのまちづくりに関して、前にこの間の議会の方でも何かの質問があったように聞いていて思いますが。まちづくり協議会とそれから私の実感では地区の区長さんたちの一人一人の各家庭の意見がもっともダイレクトに上がってくるのは区の組長さんであり、組長さんを束ねている区で</p>

発言者	発言内容
	あり、区長さんたちのところであった。その区長さんたちとまちづくり協議会との関係っていうのをどういうふうにそのすみ分けていくのか、何かこの辺りはこれから公共政策とかまちづくり考えていくときにすごく大きな整理をしていかなくちやならないところだなというふうに思っています。
副市長	一点目について私の方からまずお話をしたいと思います。人とテクノロジーについてお話をいただきました。この点については資料にはありませんが、やはり個人情報を含め、健康情報にしても何にしてもビッグデータとして収集されてしまう。実は無人運転がどんどん進んでも一定数の有人のタクシーは絶対残るだろうとも言われています。それはなぜかという行き先を知られたくない人がいるっていう話がありまして、何でもデータ化されてそれが収集されてしまいますので、要するにもう決済手段も自動ですから、誰が何時にどこでどうしたかっていうのがデータ化されてしまうということですね。普通は公開されないのでしょうけれども蓄積されるわけなので、知られたくない人は人が乗っている従来型のタクシーに乗るといった話もあります。ですからそういったそのテクノロジーと人がどう共存していくかっていうのは非常に悩ましい問題だと思っております。私も医療のところのとり方が甘いように思ったので、もし何かあれば伺いたいと思ったのですが、先に部長から2番目の地域自治組織のあり方についてお答えします。
協働環境 部長	これにつきましては昨年の末に議会の方から市長に対して、地域自治組織のあり方をどう考えるかといったことについて提言が出ております。昨年、議会でまちづくり協議会とか自治会区長会議のそれぞれのあり方をどうするか、その前提として、地域のなり手不足などの問題があって、大きな二つの組織が並列してあるよりは統合していった方が人の合理化が図れるのではないかと、省資源化が図られるのではないかなど、いろんなご意見がある中で、そういった話が出てきております。ただ、これまでの経過を踏まえて各まちづくり協議会さんなり自治会さんなりそれぞれの地域の主体性にあわせてやってきたということがあったのであえて市からすべきこうすべきということは申し上げてはなかったのですが、今後はそういったことを考えていかなければならない時期に来ているということは市長も議会で答弁しております。今後、地区集会のあり方とも検討しているので並行しながらある程度方向が出てきた段階で、地域自治組織のあり方についても、地域の皆さんと検討を重ねていこうということで考えております。まちづくりに参加する方たちは昼間働いている方では無理なので高齢化してきております。そうするとまちづくりに生産年齢の方たちが参加するには、今度は働き方改革等で参加できるような仕事の仕方ではなくてはならないとか、いろんなことが芽づる式に繋がってくると思っております。また安心して働けるには子ども子育てがちゃんとしていなくちゃいけないし、そのための支援が必要だと考えております。
委員	まちづくりに参加するには、昼間働いている人は難しいと思います。今後は働く人も参加できるような仕組みが必要だと思います。
委員	20年後のビジョンの話はとても興味深い。一方で、やっぱり過去を振り返ったときに、テクノロジーによってすごく大きな生活の変化が起こったということは経験して今があるわけですけども、起こる前のことを想像しなきゃいけないので、例えば車

発言者	発言内容
	<p>の全自動化って言うことが必ず起こるのかどうかって言う約束はできないって言ったときに行政の政策として考えれば、むしろ掛川市は車の全自動化って言うことが起こりやすい状況を作っていく。だから今こういう手だてをしておこうということを考えて結構覚悟を決めて行くことと世の中で勝手に起こっていくような変化に対して対応していくこと、その二つが求められるだろうなというようなことを思いながら聞いていました。市民の暮らしということ考えたときにたまたま僕は今浜松市に住んでいます。住みやすさランキング1位というのが大きく新幹線の止まる駅が手前ぐらいに出ています。一方で別の都市づくりの専門家の方から聞くと東洋経済研究所の住みやすさランキングというものは人口に対しての施設の数だったり、どういった施設なりサービスなりがあるかっていうことに置き換えて作った指標のようです。だから逆に人はそれだけで生きているわけではなくて感情を持って生きています。その部分を測る指標にはなっていないのでそこを履き違えると、危険だと指摘される方がいて、官能都市調査というものをされている方がいます。調査報告を出していますが、全国の県庁所在地と政令都市を対象にして調査をした結果、静岡県でいえば静岡市と浜松市を比べた場合に圧倒的に浜松市が低く、その中の指標なども全然違います。ユニークです。一番記憶に残っているのが、不謹慎かもしれないんですけどあなたはこの街で浮気をしたことがありますかですかね。要は隠れる場所があるかどうか、全てがオープンになってしまうようなところで人が暮らしたいと思うかどうかみたいなことです。それだけではなく、もちろん何十項目もありますけれども、そのような観点が入っているということがその暮らしやすさということだけを考えてみてもあるなといったときに、今日資料でいただいた中の100年時代構想の中の暮らしの部分。子供の頃から心と体両方ともが健康であるって言うことがずうっと言葉で出ています。心と体両方が健康であるから学ぶ。学んだりまた学ぶ機会を人に提供し、子供に提供したりということもできるだろうし仕事を続けていくということもできるというようなことがあるときにそのテクノロジーのこともそうですけれども、評価をするとき、もちろん数値にしていたり ABCD というところで評価のランクをつけていくこともあると思いますが、満足度は数字にならないものが大分あるし調査をするときにはどうしても膨大な調査をしてから、切り捨てなければいけないものがあるときに切り捨てるものの中にある重要なものをいかにして拾って残して伝えていくことができるかというこの手段って言うのは評価の専門家では全然ないのですが文化芸術に関わっているのが深いので、文化の中では数値で測れないと評価ということはずっと問題になっている。ずうっと言われて手段というものをいろいろなところで模索をしています。そういったいわゆる定性評価と呼ばれる部分のことをどのように共有したり、どのように残して伝えて説得力を持たせていくのかって言うこと、これが答えだとないかもかもしれないんですけども掛川式の何かを作っていくような機会を、積み重ねていく場というのがあっても良いかと思いました。</p>
会長	他の切り口からみると他の面白さがありますね。
委員	この第二次掛川総合計画策定、政策体系の考え方って言うところだと三つの日本一で教育文化や健康子育て分野、環境分野って言うことで、これを掛川市として、三つの

発言者	発言内容
	<p>日本一の中で、先ほどの将来ビジョンの検討についての説明の中で交通移動と健康医療、を中心に取り組むってということで、教育文化とか、環境とか消えているところがありますが、この辺についてお聞きしたいです。あと、現行のところていくと私もちょうど仕事の中で浜松市のある地区の地域包括ケアシステムで、介護とか医療とか、いろんな相談も地域でやっていくということをや地域を区切ってもう始めてるところがありますが、掛川市の場合は地域を分けてやるのか、もう掛川市全体が地域包括ケアシステムの中に入って行くのかということ参考を聞かせてもらいたいです。あと教育文化とか、子育てとか、一生懸命やられていくっていうのはわかりますが、高校生の意識調査で、事前にいただいて私も見てこんなもんかなと思いましたが、半分以上の方が別に掛川に住みたくないとか、掛川の企業に就職したくないとか、一生懸命育ててその子供たちがもうみんな外に出てしまうということが、今の現状です。日本の国の金融機関もだいたい2割ぐらいの人が新入社員が入ると3年ぐらいでやめてしまうという、それが今の若者の考え方であり、そういうような行動に出る若者が今増えている中で掛川市も人口増やしたいけど、せっかく教えても外へ出てしまうということでその辺のところがないと20年先、どうしたい、どうしたいって言うてもう今回も高校生となんかミーティングやるっていう話ですけど、その子たちだってみんな出てっちゃうかもしれませんよね。だからもうちょっとその高校生の子たちが全員とは言いませんけど、掛川市に魅力を感じてくれて掛川市に住んで企業に勤めるというためには静岡県に戻ってきてもらわないといけないですけどね。そういうところにもうちょっとこうスポットを当てた方がいいのではないかなと思いました。</p>
副市長	<p>最初の方の質問の方にお答えをしたいと思います。</p> <p>説明した資料で交通とか医療のところにて特化したような資料を作ってしまいましたので、三つの日本一の関係でどうかということですが、今日の説明はですね、20年後、これらの分野が非常に大きく変化があるだろうという意味で取り上げたものでありまして、掛川市の政策としては、当然この三つの日本一は踏まえて進めていく、交通とか医療だけしかやらないとか言う意味では全くないです。実はご欠席の委員さんからも、それだけやるのはどうかというふうなことを伺っておりました。</p>
委員	<p>僕が思うには、人づくりはこれから進めていかないといけないと思います。可能性のある方はどんどん。でもそれを補うのは理念とかフィロソフィーの底の部分をしっかり伝えていって、人づくりをするということだと思います。掛川市は、大日本報徳社の道徳と経済、それと同じだと思いますが、テクノロジーが進んでもそれは支えていく人づくりは、哲学をしっかり植えつけていかないといけないのではないかと思います。すぐ辞める新入社員が入ってすぐ辞める会社もあるけども、ずっとその会社に自分を育て成長させながら会社とともに歩んでいる会社もあるわけですから、そういう面ではその理念がこれから大事だと思います。だから僕は昔から三つ子の魂からを植えつけていかないといけないと思います。</p>
委員	<p>自動運転、今のご意見とも関連するし、それから先ほど委員がご発言したことも繋がれるのですが100年時代構想のこのパンフレット読んで非常に私は共感するところがありました。非常に掛川らしいと思って読ませていただいたので、こういう方針が</p>

発言者	発言内容
	<p>あつて、そして 20 年度はこういうビジョンがありますっていうこれ両輪だと思うものですから十分踏まえてくださっていると感じてお聞きしていました。常にそういった上で身も蓋もないのですけれどもそれであるならば、こういう世界がやってくる時に必要なのは原資です。市としてその政策の方向性の組み立てを見たときにこの産業経済関連っていうところ、まだキーワードなのでいろんな要素を羅列されている。この粒が揃ってないと思うのですけれども。この五、六年で、つまり掛川市としての稼ぎ頭は何なのかっていうところをもうちょっと明確に示すべきかと思いました産業経済って言った場合に、静岡県経済産業部の組織もそうですけど、労働管理的な部分とそれから新産業の開発というようなものがちゃんと組織になっています。これもいろんなものが含まれてしまっているんで稼ぐために何をやるのかっていうのをちょっと露骨ですけど柱 1 本立ててもいいくらいに、そこは切実なところがあるのではないかなというふうに思いました。あとは本当におまけの話ですが、ここに観光振興と着地型観光っていうのが入っています。こんな言い方で失礼なのですが本当に産業として掛川市の主力産業として観光をどのくらい考えていくのかっていうのも位置づけを明らかにした方がいいのではないかと思うところがあります。つまり主力でやっぱり製造業やお茶を中心とする、そういうものをつくるというところで成り立ってきたと思うものですから。並列で入れておくっていうのはちょっと厳しいかなっていうような感じがあります。もしくは、教育文化のところの広い意味での文化。人に来てもらう交流など、そういうところと繋げて一つ柱を作った方が政策的に自然になるのではないかとちょっと感想を述べさせていただきました。</p>
委員	<p>先ほど委員の方から地域包括ケアについてご質問がありましたが、掛川市はふくしあが 5ヶ所あってその地区を中心に地域包括ケアが非常に活発に進んでいると理解しておりますので、そのまちづくりに関しても、福祉拠点にただ単に健康分野だけではなくて、そこで仕事してらっしゃる職員の方がそのまちづくりまで意識を広げてお仕事されているかどうかちょっとわからないのですが、ふくしあを拠点にするという可能性はかなりあるのではないかと思います。</p>
会長	<p>ふくしあについて、事務局から何かありますか。</p>
健康福祉 部長	<p>掛川市では在宅療養支援、在宅介護支援、生活支援総合支援っていうことを柱に医療・保健・福祉・介護は多職種連携によって、総合支援を行う地域拠点としてのふくしあ正式には地域健康医療支援センターですが、市内に 5ヶ所あります。先ほどご説明があったように、総合支援的にそれぞれの分野の支援をしていくという形で行っております。</p>
委員	<p>そういうことを高校生、小中学生にもっと広めて掛川市はこんな将来自分たちが将来住むのに安心なまちだということに繋がると思いますので、もうちょっと広報していった方がいいと思います。住居の地域と農業の地域と製造業や工業の地域と別れると、20 年後どういう形になるかっていうのを思い浮かべると住民のところでは、コンパクトの中で、生活できるようになって、工業はいろんな業態の会社が集まっている。そのような中で運送コストも一つの運送コストで削減できることが可能になるかもしれない。仕入れるものも一緒に仕入れるかもしれないっていうことで一緒になる</p>

発言者	発言内容
	ことでのメリットっていうのが出てくると思います。20年先に向けて他の市にない掛川市として、思い切ってその工業と住居地域で今住居地域の中に工場がポツンと残っているところをいかに住居地域だけにして集めるかっていうことを考えてみるのも、まちづくりとか地域コミュニティに繋がっていく一つじゃないかと思います。
企画政策課長	今日欠席の委員からのご意見いただいています。人口減少に焦点を当てて、もし人口を増やす目標を立てるのであれば、外国人の増、自然増。社会像に分けて目標立て策を考える必要があります。今回の総合計画の最大の焦点は、人口減少への対応だと思います。重要テーマは人口減少への対応、高齢化への対応としてそれぞれテーマに対する政策を検討する必要があるというような意見をいただいておりますのでご紹介をさせていただきます。
会長	今日は方向性、施策の体系、方向性についていろいろとご意見いただきありがとうございます。それでは本日の議事は以上とさせていただきます。
市長	いろいろの御意見をいただきましてありがとうございました。 市長として今回の総合計画をどう見直していくかというときに、やはり新しい時代、令和の時代になったということで前の時代、平成の時代と違い、新しく変わっていくまちづくりを進めて行かなければならないのかというところに論点を行っているいろんな課題を整理しながら進めていくということが一番大事だろうと思って構想部分も少し手を入れていくことが必要になるのではないかと考えてありますので、今日出たいろんな意見を我々としても十分検証をしながら、その計画が良いものになるようにしていきたいと思います。観光の話がありましたけれども、産業がしっかりしていかないと、いろんな面で遅れを取ってしまう。これは、農業もそうですし、最近では林業もそうですし、いろんな産業を働く場の確保を含めて産業がきちっとしなきゃいけない。掛川はものづくりのまちであったが、ものづくりだけでは限界がある。観光等の政策をしっかり推し進めている必要があると思います。それから、グローバルにこの地域の産業が展開するかどうかは、人、先ほどお話ありましたけれども、いろんなものを人と金、二つがあって、産業政策っていうのはこれから成り立っていくのだらうなというふうに思っておりますので、それを補完する人づくり、こういうものが重要になってくるだろうというふうに思っておりますので、総合計画でうたえることはしっかりいろいろうたっていきたいというふうに思います。いろんな意見を聞いて、本当に変化の激しい時代に対応し、まちづくりを進める、総合計画にしていきたいというふうに思っておりますので、皆さんのさらなるご意見をいただきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。
事務局	次回の日程について 総合計画の改定案の審議 会長と相談の上連絡をさせていただきます。
7. その他	
8. 閉会	
事務局	(省略)